

【評価】 4：とてもそう思う 3：すこしそう思う 2：あまりそう思わない 1：まったくそう思わない

対象	今年度の目標	実践計画	評価の観点	評価 平均	評価の内訳			
					4	3	2	1
教 務 部	① 総合的な探究の時間の内容の充実を図る。	①総合的な探究の時間と他の教育活動の連携を図るとともに各学年における探究的学習の段階的な指導を実践する。	① 総合的な探究の時間の内容の充実、改善が図られた。	3.8	8	2	0	0
	② 生徒の学習意欲向上につながる学習評価になるよう改善・充実を図る。	②生徒の学習状況を把握するとともに、授業評価を活用した授業改善に取り組む。	② 生徒の学習状況の把握と授業評価を活用した授業改善が実施できた。	3.4	4	6	0	0
	③生徒の興味・関心および学習理解を高めるICT機器を活用した授業を実践する。	③ ICT機器を整備し、授業への活用が促進されるよう情報の共有を図る。	③ ICT機器の整備と授業への活用が推進された。	3.6	7	2	1	0
生 徒 指 導 部	①社会的資質や行動力を高めるための指導の充実を図る。	①生徒の安全な学校生活を見守るための巡回指導や、基本的な生活習慣の確立に努める。 ・特に、遅刻・欠席の指導は担任が中心となるが、改善傾向が見られない場合には、生徒の状況を踏まえて担任・生徒指導部・教務部と協議し指導する。 ・生徒の問題行動があった場合には、複数の教員で指導にあたる。軽微な問題行動についても、職員全体に周知し全教職員の共通理解のもと、声かけ・指導を行う。 ・特別指導後の生徒に対し、担任・生徒指導部長と事後指導計画を立案し、継続的な事後指導を行う。必要であれば教育相談的な指導を行う。	①-1 生徒は安定した学校生活を送れたことができた。	3.6	6	4	0	0
			①-2 遅刻・欠席は減少した。	2.7	2	3	5	0
	②いじめの未然防止と望ましい人間関係の形成を図る。	②お互いの「人権」を尊重できるよう言動についても、粘り強い声かけを行うとともに、アンケートなどを通して未然防止・早期発見・解決に努める。 ・いじめアンケート（2回）を実施し、問題があった場合は職員全体で解決にあたる。 ・担任が中心となる面談や教育相談、生徒の様子や言動から早期に情報の把握及び対応に努める。 ・「お互いが違う存在」として認め合えるよう、HRや行事での活動を支援する。 ・ネットトラブル防止のため、啓蒙活動とパトロールを行う。（1年次では携帯電話安全教室の実施（5月）、ネットパトロールの結果を踏まえ、情報の授業・HR・『生徒指導部通信』などで注意喚起を図る。）	②事後指導後の生徒に改善状況は見られた	3.5	5	5	0	0

【評価】 4：とてもそう思う 3：すこしそう思う 2：あまりそう思わない 1：まったくそう思わない

対象	今年度の目標	実践計画	評価の観点	評価 平均	評価の内訳			
					4	4	4	4
生徒指導部	③教育相談など、教職員の生徒理解の深化に努める。	③教育相談の機会を積極的に活用し、全教職員が生徒理解に努めるとともに、特別支援教育の研修会等を行い「理解力」向上を目指す。 ・担任が行う面談、季節毎に実施する「お話しま週間」での情報を全教職員で共有し、支援に活用する。 ・支援の必要な生徒については、実態把握や個別の支援計画を立て、サポート会議を開き、全教職員で情報を共有し、支援を行う。 ・サポート会議での生徒情報、Q-U検査の内容については、教職員全体に周知する。 ・スクールカウンセラーの来校は12回（1月に1回）を予定。 ・問題行動の指導のあと、教育相談的な事後指導を継続する。 ・パートナーティーチャー等による特別支援教育の研修会等を行う。	③-1 サポート会議を通じて情報共有できた。	3.9	9	1	0	0
			③-2 スクールカウンセラーパートナーティーチャーと提携できた。	4.0	10	0	0	0
	④主体的な生徒会活動を推進し、自主的・実践的な態度を育成する。	生徒会執行部や、生徒会執行部以外の自主的サポーターなどで、生徒が中心となって考え実践できるよう支援する。 ・コロナ・インフルエンザなどの感染状況を確認しながら、生徒会活動の実施を生徒に検討させる。 ・各行事の企画・実施・反省まで、生徒が中心となって考え実践できるよう支援する。 ・生徒会活動の精選・実施の可否を生徒自身に検討させる。	④生徒会執行部による自主的な取り組みが見られたか。学校行事を通じた協働する力の向上が見られた	4.0	10	0	0	0
	⑤心身ともに健康に生き抜く力の育成を図る。	基本的生活習慣の確立を目指し『保健だより』などによる情報発信を行い生徒の意識向上に努める。 ・『保健だより』などによる情報発信や生徒の意識向上に努める。 ・起床や就寝時間、食事などについても面談などを通じて生徒の意識改革などを促す。	⑤生徒たちが規則正しい生活を送れるようになった	3.3	4	5	1	0
	⑥ネットトラブル防止に向け、情報端末の使用に関する指導の充実を図る。	⑥ネットトラブル防止に向け、外部の関係機関と連携した講話を実施する他、情報や総合的な探究の時間などにおいても指導に取り組む。 ・1年生においては、携帯電話安全教室を実施し、ネットトラブル防止の意識・行動を心掛けさせる。 ・全道の動向（月毎に集計されるネットパトロールなどの報告集を利用）に注視し、『生徒指導部通信』や全校集会などで意識向上と利用マナーについて指導する。	⑥ネットトラブルの件数は減少傾向にある	3.3	4	5	1	0
	⑦防災や危機管理に関する意識の向上を図る。	⑦自分の命を守り抜くための「自助」の行動を身に付けることができるよう「1日防災学校」や避難訓練等の内容や方法等を検討する。 ・昨年度に続き防災教室（6月の避難訓練時）を実施し、生徒の意識向上を促す。 ・高台にある学校での意識だけでなく、生徒の居住地域での行動も意識できるように防災教室も工夫する。	⑦防災に対する生徒の意識の向上は図れた	3.2	3	6	1	0
	⑧防犯の知識や危険から身を守る力の育成を図る。	⑧防災に関する意識の向上は、外部の関係機関による講話の実施や全校集会、『生徒指導部通信』の発行等を行う。 ・様々な機会を通じて「防犯」を含め、危機管理に関する生徒の意識向上に努める。	⑧危機管理に関する生徒の意識の向上は図れた	3.3	3	7	0	0

【評価】 4：とてもそう思う 3：すこしそう思う 2：あまりそう思わない 1：まったくそう思わない

	今年度の目標	実践計画	評価の観点	評価 平均	評価の内訳			
					4	3	2	1
進 路 指 導 部	①様々な視点から自己を見つめ、理解し、自己も他も大切にしながら共に成長をしていこうとする姿勢を育む。	①自己理解の大切さを理解し、アンケートや調査で自己を客観的に見つめ、グループ学習を通じて他者を理解し認め合い協働できる力を育む進路学習を実施する。 ・「キャリアパスポート」と「進路のしおり」を活用した振り返りを行う。 ・各種テストやアンケートを横断的に活用し、自己理解や他者理解を促す。 ・企業見学や大学見学の事前・事後指導としてグループ学習による協働作業を行う。 ・基礎力診断テストを活用した継続的な学習指導・進路指導と事後ガイダンスを行う。	①-1「キャリアパスポート」および「進路のしおり」、その他資料を活用した振り返りをさせることができた。	3.5	5	5	0	0
			①-2 グループ学習を通じて、他者と協働して課題解決する力を養うことができた。	3.6	6	4	0	0
	②体験とふりかえりを重ね、自己理解を深めながら自己実現に向けて主体的に進路を切り拓く力を養う。	②計画に沿ったキャリア教育を全職員により組織的に実施するとともに、進路学習を充実させ主体的に自己の進路を考える機会を設ける。 ・入学時から4年間を見据えた継続したキャリア教育を行う。 ・体験的な学習を通して、様々な進路を理解させるとともに望ましい勤労観や職業観を身につけさせる指導を行う。 ・総合的な探究の時間を活用し、事前・事後指導を充実させ、主体的に自己の進路について考える指導を行う。 ・4学年の進路活動支援を全職員で行う。 ・三修制対象生徒への学年と連携した計画的な指導を行う。 ・進路希望調査、キャリア教育アンケート、進路学習アンケートを実施する。	②-1 キャリア教育計画に沿った指導が実施できた。	3.5	6	3	1	0
			②-2 学年及び関係各所と連携し、事前・事後指導の充実を図ることができた。	3.7	8	1	1	0
			②-3 4学年の進路指導を適切に実施できた	3.7	8	1	1	0
			②-4 三修制対象生徒の指導を学年と連携して適切に実施できた	3.2	4	4	2	0
			②-5 各種調査、アンケートを実施し、次年度の改善に活かせる現状分析ができた	3.5	5	5	0	0
	③地域内外の教育資源の活用や、教育機関及び企業等の協力を仰ぎ、キャリア教育の充実を図る。	③企業や大学・短大・専門学校およびその他機関と連携した進路学習や進路指導支援を実施する。 ・企業見学、大学見学、インターンシップ等の体験的学習を行う。 ・分野別進路学習会、労働教育啓発事業、就職ガイダンス、面接指導等を各機関と連携して行う。 ・支援を要する生徒に対し、ハローワーク、サボステ、CPSV（：道）進路相談員）、ぷれん等の面談やカウンセリングを行う。 ・全日制進路指導部および全日制3学年との連携を図り、進学希望者を支援する。 ・進学および企業の説明会、奨学金案内、進学資金ガイダンス等の情報提供を行う。 ・保護者向け進路説明会を実施する。	③ 学校内外の教育資源を活用して、目標達成のための効果的な指導が実施できた。	4.0	10	0	0	0
	④将来の社会的・職業的自立に向け、望ましい勤労観・職業観を身につける体験を促す。	④計画されている進路学習・体験学習に加え、自ら進んで学習や体験ができる機会を多く設定する。 ・各種ガイダンスの内容の充実を図る。 ・教科と連携し、資格試験や模擬試験等に関する情報を与え、積極的な挑戦を促す。 ・各種説明会やボランティア関連の情報を発信し、積極的な参加を呼びかける。 ・既卒者の就職状況について追跡調査を行う。	④-1 適切な時期に適切な情報を与えることができた	3.8	8	2	0	0
			④-2 各種イベントへの積極的に参加した。	3.6	8	1	0	1